

2021年5月22日

聖霊降臨の主日

菊地功大司教 メッセージ

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です」

五旬祭の日に聖霊を受けることで誕生した教会共同体は、「霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で」神の福音を語り始めました。パウロはその教会が、「霊の導きに従ってまた前進」し続けることで、どのような実りを生み出すのかを明確にします。

ヨハネ福音は、「真理の霊が来ると、あなた方を導いて真理をことごとく悟らせる」と語るイエスの言葉を記して、教会共同体が、常に聖霊によって真理へと導かれていることを明確にします。

第二バチカン公会議の教会憲章は、教会に聖霊が与えられたことによって、「聖霊は教会の中に、また信者たちの心の中に、あたかも神殿の中にいるかのように住み、彼らの中で祈り、彼らが神の子となったことを証明する」と記します。

その上で、「福音の力を持って教会を若返らせ、たえず新たにし、その花婿との完全な一致へと導く (4)」のは、聖霊であると明示します。

教会は、常に聖霊に満たされ、聖霊によって導かれています。第二バチカン公会議の現代世界憲章は、「神の民は、世界を満たす主の霊によって自分が導かれていることを信じ、この信仰に基づいて、現代の人々と分かち合っている出来事、欲求、願望の中に、神の現存あるいは神の計画の真のしるしを見分けようとする (11)」と記します。すなわち、教会は社会の現実から切り離された隠れ家となるのではなく、積極的に社会の現実を識別し、神の計画を見極めるために向いていく存在であります。

聖霊の導きに信頼していますか。社会の現実に向く神の力を識別し、時のしるしを読み取り、聖霊の導きに身をゆだねているのでしょうか。わたしたちが生み出すべきは、「愛、

喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」という聖霊の実りです。常に若返り、新たに変えられていく勇気がありますか。すべての人に理解される言葉で、福音を語り続けているのでしょうか。現代世界憲章が、「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、特に貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもある」と、その冒頭に記していることを、常に心に留めたいと思います。

感染症への対応が社会にさまざまな影響を及ぼしています。病床にあっていのちのために闘う人たちのために、またいのちを救うために奮闘される医療関係者に心からの敬意をもって、祈ります。そして、この困難な状況の一日も早い終息を求めて、祈り続けましょう。

同時に、感染症対策に伴って、経済が悪化し、生きる困難を抱える人たちが増え、さらには自殺・自死も、とりわけ若い世代で増加していると指摘されています。闇の中を歩む不安な心は、寛容さをわたしたちから奪っています。法的立場や国籍をこえて、また社会的背景をこえて、助けを求めている多くの人たちを、まず守ろうとする寛容な社会でありたいと思います。いのちを守ることを最優先とする社会の実現は、現代社会にあって聖霊に導かれる教会にとって、まさしく自分たちの問題であります。

聖霊降臨を祝う今日、わたしたち現代社会に生きる教会共同体は、あらためて聖霊に満たされ、聖霊の導きに信頼し、その実りをわたしたちの言葉と行いを持って生み出すことが出来るように、努める決意を新たにいたしましょう。